

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	第158回東邦医学会例会 シンポジウム:東邦大学におけるAI医療の可能性について 座長のことば
別タイトル	158th Regular Meeting of the Medical Society of Toho University: Symposium: Artificial Intelligence (AI) research in Toho University
作成者(著者)	堀,裕一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(4). p.142-142.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	総説
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_037
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD18066064

座長のことば

東邦大学における AI 医療の可能性について

堀 裕一

東邦大学医学部眼科学講座 (大森)

第 158 回東邦医学会例会において、2021 年 (令和 3 年) 6 月 17 日 (木) の当番教室は我々眼科学講座 (大森) が担当させていただきました。当番教室企画としてシンポジウムを 1 つ企画しても良いというお話をいただき、兼ねてから個人的に興味があり、今後医療に深く関わってくると思われる AI 医療をテーマにさせていただきました。当教室では以前から生理学講座細胞生理学分野の内藤篤彦教授、間木重行先生と共同で、レーザースペックルフローグラフィ (LSFG) という眼血流検査を使って AI 研究を行っており、この企画が実現した次第です。折角なので、AI 医療に関連が深そうな放射線医学講座の堀 正明教授、病院病理学講座の栃木直文准教授にお声がけをしたところ、やはり AI 研究に携わっておられるとのことでご登壇していただくことができました。さらに折しも良いタイミングで

泌尿器科学講座の小林秀行准教授の AI を使った研究が Scientific Reports に論文がアクセプトされ、ご登壇をお願いしたところ、ご快諾いただきました。

当日は、平日の午後 8 時前という遅い時間からのスタートにも関わらずたくさんの先生方に参加していただき、活発な討論ができました。これを機会に東邦大学の中で AI 研究がさらに盛り上がっていけると企画者として大変嬉しく思います。

ご講演をいただいた先生方、遅くまで熱いディスカッションをしてくださった参加者の先生方、また会場のセッティングや進行をお手伝いいただきました東邦医学会の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2021-037